

決算説明会

2017年3月期第1四半期

2016年8月2日
ミネベア株式会社

LEDバックライトの需要減と円高影響も それ以外の主力事業の生産・出荷は堅調に推移

(百万円)	2016年3月期		2017年3月期	前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	1Q	4Q	1Q		
売上高	127,391	135,599	120,288	-5.6%	-11.3%
営業利益	12,512	8,536	6,971	-44.3%	-18.3%
経常利益	12,872	8,215	7,255	-43.6%	-11.7%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	10,058	6,802	3,176	-68.4%	-53.3%
一株当たり 四半期純利益(円)	26.90	18.17	8.48	-68.5%	-53.3%

為替レート	16/3期1Q	16/3期4Q	17/3期1Q
US\$	120.97円	118.37円	111.12円
ユーロ	132.74円	129.35円	125.16円
タイバツ	3.66円	3.30円	3.14円
人民元	19.49円	18.06円	17.03円

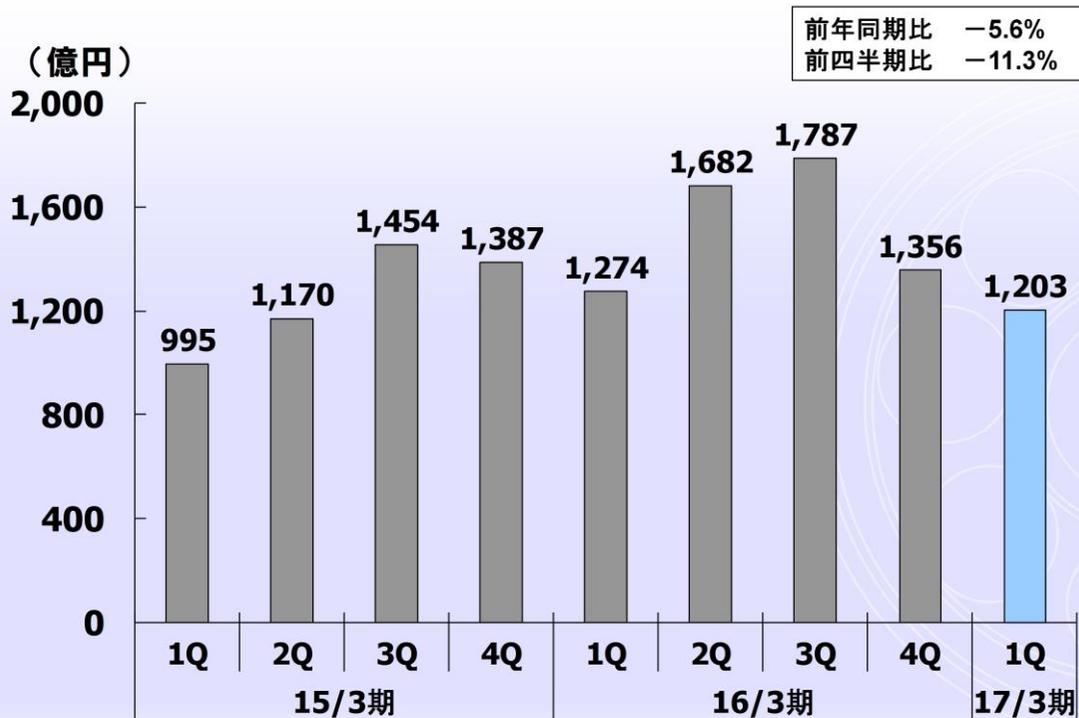
タイでの過年度法人税
支払いが追加で約20億円。
ただし2Qに約7.5億円が還付へ。

2016年8月2日

1

2017年3月期第1四半期の連結業績は、このスライドの通りです。売上高、利益とも近年の水準を下回る結果となりましたが、これは主に売上高の大きな割合を占めるLEDバックライトのスマホ向け需要の低迷が続いていることに加え、為替が円高に推移したことによる円換算上の目減りによるもので、主力事業であるボールベアリングをはじめ、航空機部品、モーター、センシングデバイス等において生産と出荷は堅調でした。

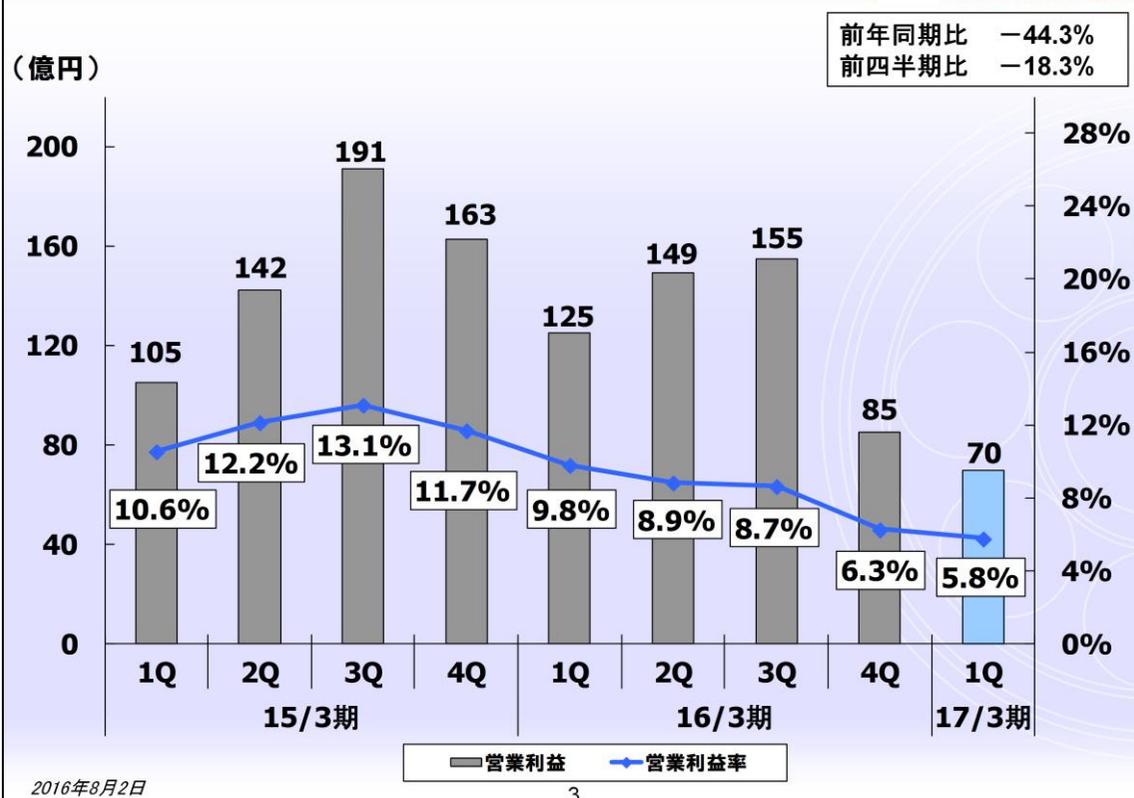
為替の影響は、売上高で前四半期比マイナス58億円、前年同期比マイナス84億円、営業利益で前四半期比マイナス9億円、前年同期比プラス17億円、との推計です。



2016年8月2日

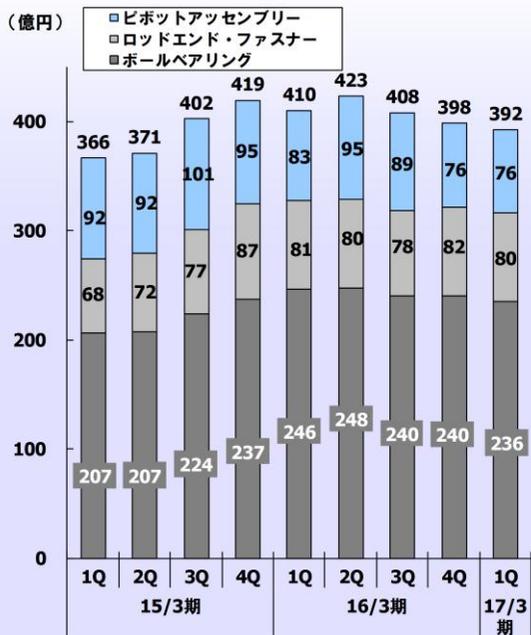
2

第1四半期の売上高は減収となりましたが、LEDバックライト以外の主力事業での堅調な出荷を受け、期初計画を上回りました。第2四半期は、需要期を迎えるLEDバックライトを中心に第1四半期に比べ増収を見込んでいます。

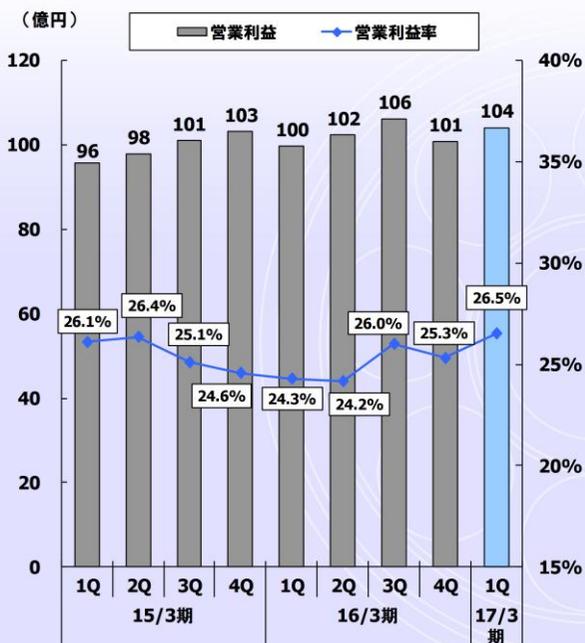


営業利益も減益となりましたが、期初計画を上回りました。営業利益率は前四半期から0.5ポイント低下し5.8%となりました。

売上高



営業利益



※16/3期より各セグメント間での軽微な変更があり、比較のため15/3期分の数値を過年度遡及修正しています。

2016年8月2日

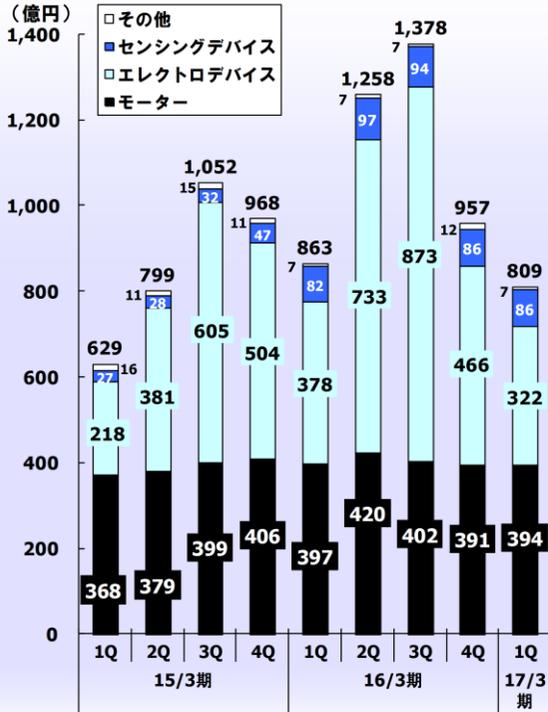
機械加工品事業セグメントの売上高は、前四半期比1.5%減の392億円、営業利益は前四半期比3.3%増の104億円となりました。営業利益率は、前四半期比1.2ポイント上昇し26.5%と、近年での最高水準となりました。

ボールベアリングの売上高は、前四半期比1.7%減の236億円となり、利益は増加しました。自動車および高級家電向けを中心に幅広い用途で力強い需要の伸びが続いています。外部販売数量は、6月に1億6,800万個と単月での過去最高を更新し、4~6月平均でも1億6,300万個と四半期としての過去最高を更新、かつ15四半期連続で前年同期を上回りました。

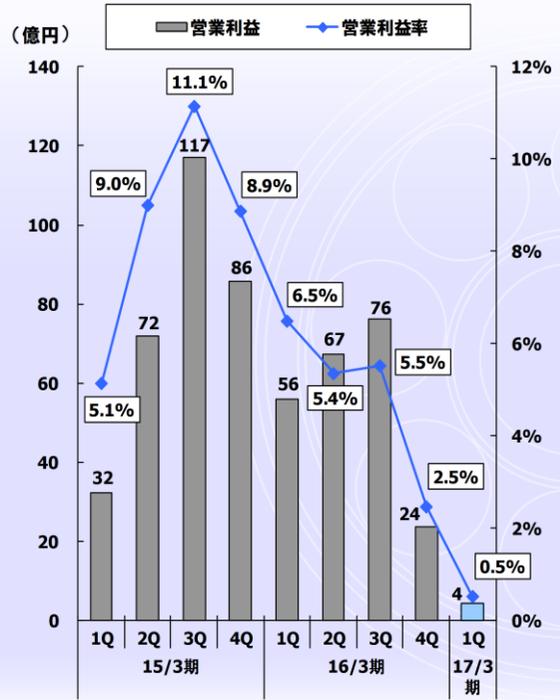
ロッドエンド・ファスナーの売上高は、前四半期比2.4%減の80億円となり、利益は横ばいでした。世界の民間航空機の需要増を受けて積極的な設備投資をおこなうとともに、社内拡販体制の整備とコスト削減を強化することで、収益力を強化していきます。

ピボットアッセンブリーの売上高は、前四半期比横ばいの76億円となりましたが、利益は減少しました。4~6月期のHDD市場は縮小トレンドが一服したことに加えて、当社シェアも上昇しました。

売上高



営業利益



※16/3期より各セグメント間での軽微な変更があり、比較のため15/3期分の数値を過年度遡及修正しています。

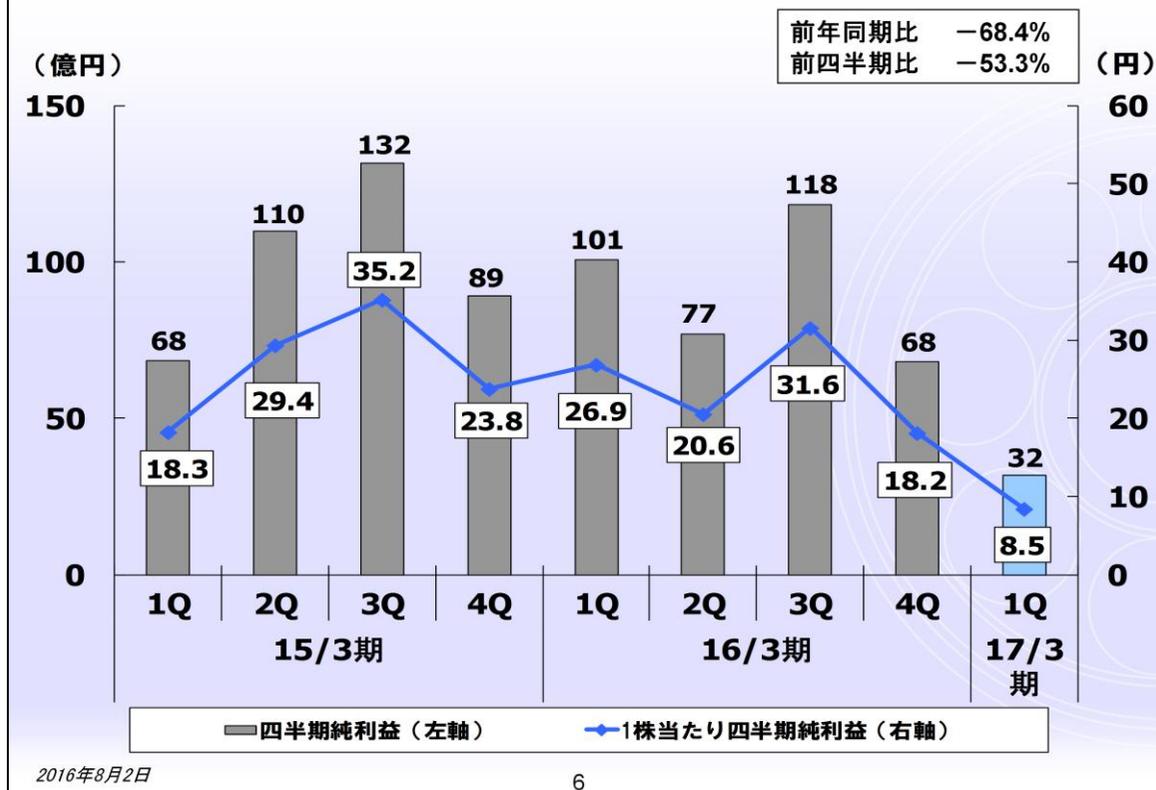
2016年8月2日

電子機器事業セグメントの売上高は、前四半期比15.4%減の809億円、営業利益は前四半期比81.8%減の4億円となりました。営業利益率は、前四半期比2.0ポイント低下し0.5%となりました。

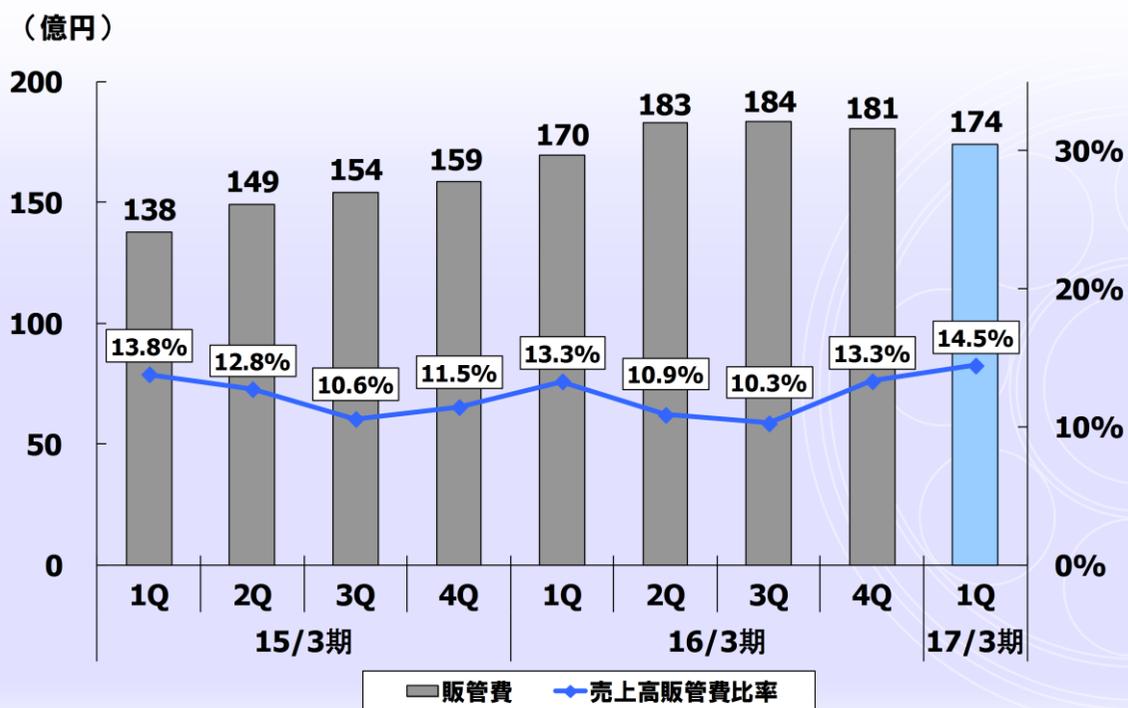
モーターの売上高は、前四半期比0.8%増の394億円となり、利益も堅調に推移しました。自動車向けを中心に好調な需要があったことに加え、Moatechをはじめとする様々なモーター製品群で収益改善が進みました。

エレクトロデバイスの売上高は、前四半期比30.9%減の322億円となり、利益面では赤字が拡大しました。ハイエンドスマホ向けLEDバックライトにおいて、前四半期から引き続き在庫調整がありましたが、第2四半期以降は新モデルの出荷が開始される予定で、売上、利益とも第1四半期を大幅に上回る見込みです。

センシングデバイスの売上高は、前四半期比横ばいの86億円となり、利益も堅調でした。自動車向けを中心に既存事業が堅調に推移しています。



純利益は、前四半期比53.3%減の32億円、一株当たり純利益は8.5円となりました。これは、主にタイ子会社における現地国税当局との訴訟の判決結果に伴い、当四半期に法人税が約20億円追加で発生したためです。ただし、このうち約7億5,000万円については、第2四半期に還付されることとなりました。

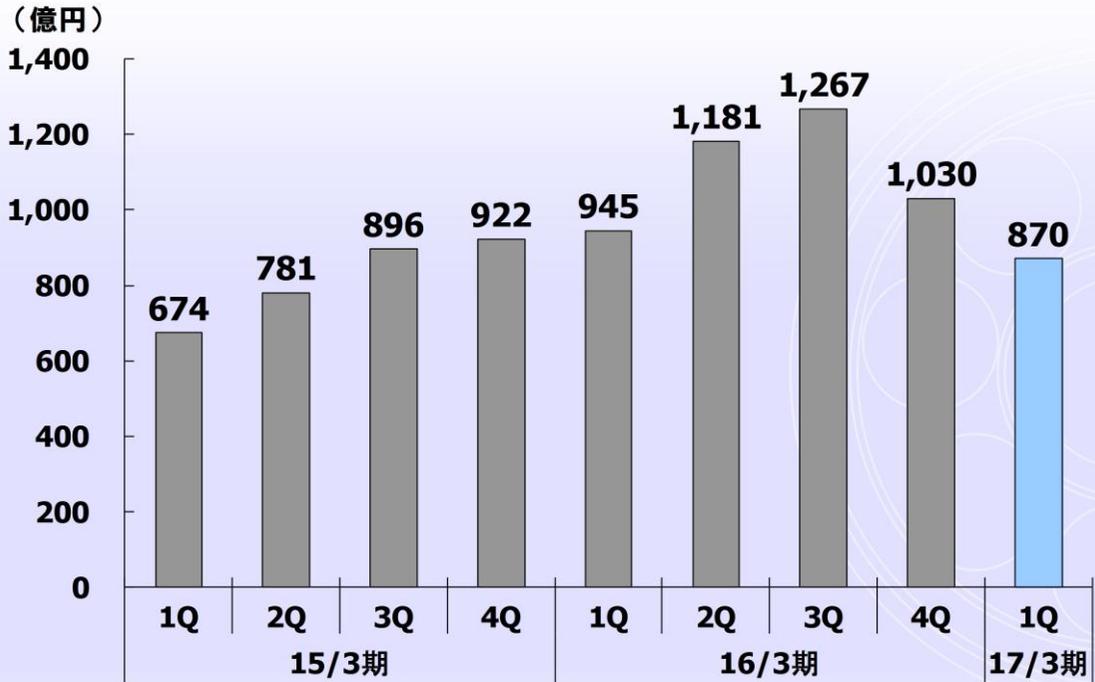


2016年8月2日

7

販管費は、前四半期比7億円減少し、174億円となりました。売上高販管費比率は前四半期比で1.2ポイント増加し14.5%となりました。

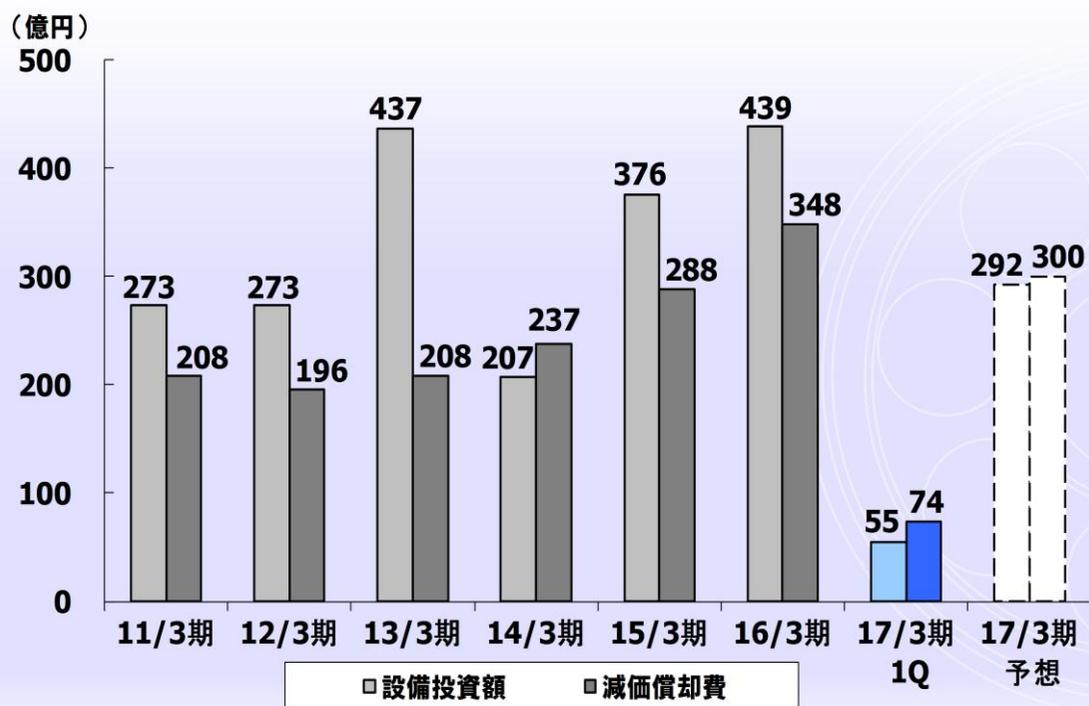
これは、売上の減少による影響に加えて、主に来年3月に予定しているミツミ電機との経営統合に関連した一時的費用が発生したためです。



2016年8月2日

8

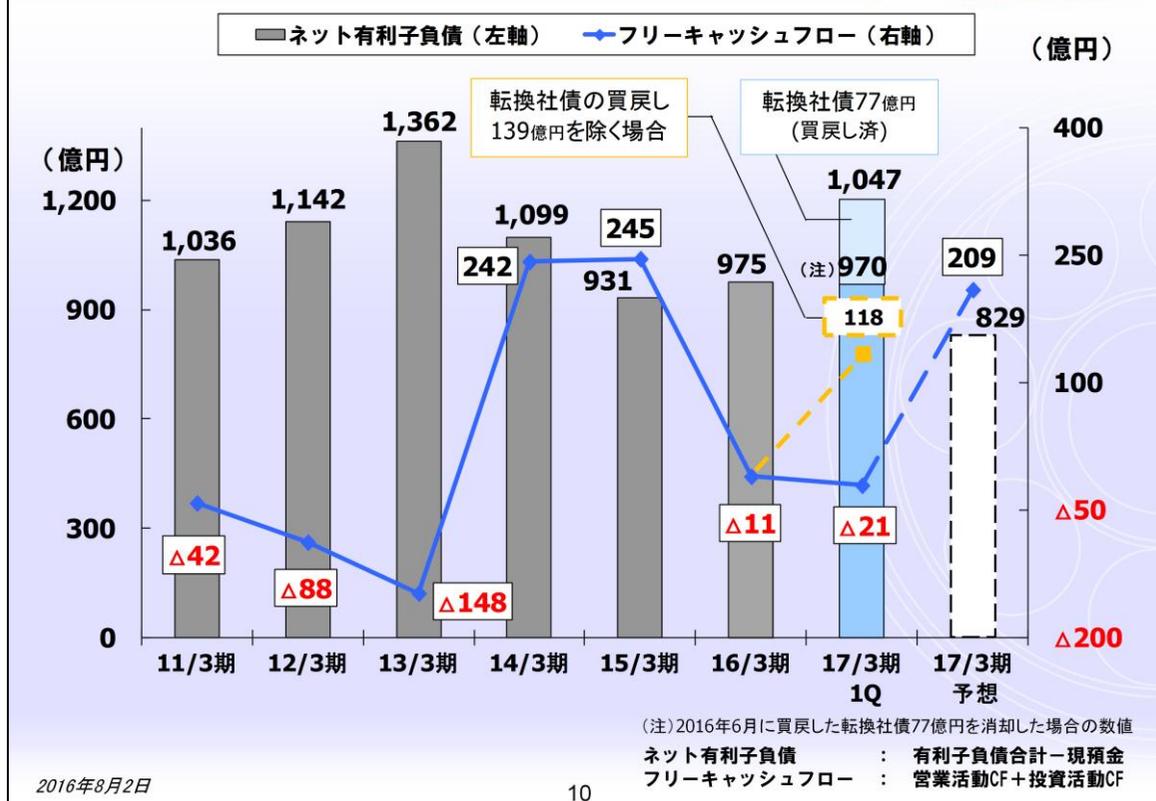
第1四半期期末のたな卸資産は、3カ月前と比べて160億円減少し、870億円と売上高に見合った適正な水準に近づきました。LEDバックライトにおいて、前四半期から実施していた在庫調整が一巡したことに加え、円高による影響もありました。



2016年8月2日

9

第1四半期の設備投資は55億円、減価償却費は74億円でした。今期の設備投資額および減価償却費は、LEDバックライトでの大型設備投資が完了したこと、一方で償却が進んだことを受けて、前年比で大幅に減少する見込みです。



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移です。

第1四半期末におけるネット有利子負債は1,047億円となりました。なお、本年6月に希薄化対策の一環として転換社債77億円を買戻しましたが、まだ消却しておらずバランスシートに資産と両建てで残っているため、有利子負債として計上され、現金は139億円減少しています。この転換社債を仮にいま消却した場合のネット有利子負債は970億円と、前四半期末から減少しています。

当四半期のフリーキャッシュフローはマイナス21億円でしたが、特殊な資金需要である転換社債の買戻しを除いたベースでは118億円となります。昨年末以降LEDバックライトでのたな卸資産の増加により低下していたキャッシュ創出力は順調に回復しています。

業績予想は変更なし

(百万円)	2016年3月期		2017年3月期		前年比 伸び率
	通期	上半期	下半期	通期	
売上高	609,814	260,000	300,000	560,000	-8.2%
営業利益	51,438	18,300	26,700	45,000	-12.5%
経常利益	46,661	17,800	26,200	44,000	-5.7%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	36,386	12,100	18,900	31,000	-14.8%
一株当たり 純利益(円)	97.26	32.31	50.46	82.77	-14.9%

為替レート	16/3期 通期実績	17/3期 2Q-4Q想定
US\$	120.78円	105.00円
ユーロ	132.75円	122.00円
タイバツ	3.46円	3.00円
人民元	19.03円	16.20円

2016年8月2日

11

これは、今期2017年3月期の業績予想をまとめたものです。

第1四半期の売上高、営業利益は期初計画を上回る実績を上げることができましたが、第2四半期以降の為替動向および顧客動向は依然として不透明感が強いことを鑑みて、通期業績予想は期初計画を据え置くこととしました。

月平均外販数量は**15**四半期連続で前年同期比増加中！

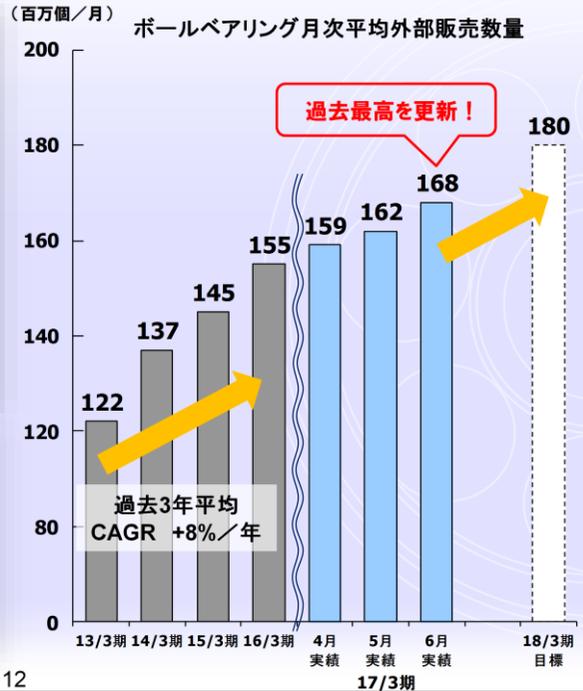
6月の外販数量は過去最高の1億6,800万個を達成

新「5本の矢」戦略の達成に向けて
順調に進展中

- 高級消費財向け精密部品の需要は非常に堅調で、外部販売数量は四半期ごとに増加中。
- 6月の外部販売数量は過去最高の1億6,800万個を達成。今期中に単月1億7,000万個を目指す。
- 新「5本の矢」戦略の目標である、18/3期の月平均外販数量1億8千万個は十分達成可能。

内販は縮小も外販の拡大により
利益率は高水準を維持

- HDD市場の縮小でボールベアリングの内販は数量低下も、外販数量の増加により利益率は高水準を維持。



2016年8月2日

12

まず、当社の主力製品であるミニチュアボールベアリングの状況についてご説明します。

ミニチュアボールベアリングの月次外部販売数量は依然として四半期を追うごとに増加しており、**15**四半期連続で前年同期を上回り、**6**月には過去最高の1億6,800万個を達成しました。これは、自動車や高級家電等、当社の事業領域である高級消費財向け精密部品の分野において、米国や欧州を中心とする先進国の需要が堅調に推移していることが主要因で、今後も着実に伸びていくと見込んでいます。昨年5月に発表した新「5本の矢」戦略の目標の一つである「ボールベアリングの外販 月平均1億8千万個」の達成に向け、順調に進んでいます。

一方で、ピボットアッセンブリー向けを中心とする内部販売については、**HDD**市場の縮小により緩やかな減少を想定していますが、外販数量の拡大およびピボットアッセンブリーのさらなるシェア獲得により、収益への影響は最小限にとどめています。加えて、タイパーツがドルに対して安定的にポジティブに推移していることもあり、機械加工品の利益率は引き続き高い水準を維持しています。

1

**主要各国への独禁法企業結合申請は
7月までにすべての承認が完了**

- 日本、米国、ドイツに続き、中国、韓国の独禁法当局より承認が完了
- 競合する製品分野以外においては、経営統合を前提とした統合準備行為が可能となる

2

**業務支援契約を締結
両社内のリソースをフル活用し広い分野で早期のシナジー効果を追及**

- ミツミ電機製品の販売代理店契約等、拡販に向けた連携
- ミツミ電機に対する製造支援
(自動化・省力化技術、精密金型技術、設備・施設の活用等)
- ミネベアからミツミ電機へ出向者を派遣
- 共同購買・集中購買の実施

2016年8月2日

13

次に、ミツミ電機との経営統合の進展についてご説明します。

本年3月30日にミツミ電機との経営統合に関する最終合意を締結後、主要各国の独禁法当局へ企業結合申請をしていましたが、7月までにすべての承認が完了しました。これにより、ミネベアとミツミ電機は競合する製品分野以外においては、経営統合を前提とした統合準備行為が可能となります。

これを受けて、本日8月2日に両社で業務支援契約を締結しました。具体的には、ミツミ電機製品の販売代理店契約など拡販に向けた連携、ミネベアの自動化・省力化技術および精密金型技術、設備・施設等を活用し、ミツミ電機に対する製造支援をおこないます。また、ミネベアからの出向者の派遣、共同購買・集中購買の実施等、両社の社内リソースをフル活用し、広い分野で早期のシナジー効果を追求していきます。

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送を行わないようお願いいたします。